

# 寅さん歩 その22

## 東京2020 聖火リレー-10

～兵庫県・京都府・  
滋賀県・福井県・石川県～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場とのこと。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔兵庫県〕 2020年5月24日～25日

聖火リレーコースは5月24日 豊岡市～姫路市、25日 神戸市～丹波篠山市

です。

兵庫県は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー11」ご参照ください。

聖火は京都府へ引き継がれます。

### 〔京都府〕 2020年5月26日～27日

聖火リレーコースは5月26日 京丹後市～亀山市、27日 宇治市～京都市です。

京都府は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー12」ご参照ください。

聖火は滋賀県へ引き継がれます。

### 〔滋賀県〕 2020年5月28日～29日

聖火リレーコースは5月28日 高島市～大津市、29日 甲賀市～長浜市です。

滋賀県は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー13」ご参照ください。

聖火は福井県へ引き継がれます。

### 〔福井県〕 2020年5月30日～31日

聖火リレーコースは5月30日 高浜市～鯖江市、31日 越前市～福井市です。

寅次郎、2000年（平成12年）5月「第9回若狭・三方五湖ツーデーマーチ」で美浜町・若狭町を訪れています。金曜日の仕事を終え、東京駅発の夜行高速バスで敦賀に行き、JRで三方駅へ向かいました。宿は料理が評判の民宿、新緑に包まれた若狭の自然、海や湖の波の響き、森のささやきに触れながら若狭路を歩きました。

大会1日目は「若狭街道・山の道・海の道」、尾根沿いから若狭湾まで足を延ばしました。日本のリアス式海岸、万葉集に詠われた若狭湾の沖の小島を眺めつつ歩きました。ゴール後、会場で行われたウエルカムパーティでのマグロ2本の解体・刺身サービスは圧巻でした。

2日目は三方湖、菅湖、久々子湖、日向湖、水月湖の五湖を一周、五湖のつながりと湖畔のウォーク 40 kmを満喫しました。田圃からはカエルの鳴き声、森からはウグイス・マツゼミ（一番早く鳴くせみです）の鳴き声がありました。三方町は日本有数の縄文遺跡が残され、また日本2番目（1番は和歌山県）の梅（福井梅）の産地と知りました。

参加記念品はお米と梅干です。民宿の食事も日本海の幸で満腹、宿の人のおかずのあら煮を出してくれるおまけのサービスもありました。



帰りは急行で米原駅に出て新幹線で帰宅、急行では前の席に座ったのが神奈川県から参加の女性ウォーカー。これがご縁でFWAに入会されるというおまけつきの旅でした。

2001年（平成13年）の第10回大会にも参加しました。

映画の寅さん、1972年（昭和47年）8月公開の第9作「男はつらいよ 柴又慕情」で福井県東尋坊に登場しています。

柴又に帰って来た寅さん、自分の部屋が妹さくら夫婦のマイホーム建設資金のために貸間に出されているのを知り、怒ってまた旅に出ます。北陸の旅で三人娘（歌子他）と出会い、シャッターを頼まれ、「はい バター」と言って仲良しになります。柴又で歌子（吉永小百合）と再会、父との二人暮らしなので、好きな陶芸青年との結婚とを悩んで柴又に来たとも知らずに、「歌子に良い人を紹介したい」と言いながらも歌子に想いを寄せる寅さんです。



さくらの助言で歌子が寅さんに結婚を伝えるシーンは泣かせます。さくらの「なぜ旅に出るの？」に寅さん「ほら見な、あんな雲になりてえんだよ」と告げ、「またふられたか」と独り言。歌子の陶芸青年との新婚生活シーンと旅先で舎弟の登との再会で幕。

聖火は石川県へ引き継がれます。

【石川県】 2020年6月1日～2日

聖火リレーコースは6月1日 加賀市～金沢市、2日 輪島市～七尾市です。

寅次郎、2005年（平成17年）6月「第2回加賀百万石ツーデーマーチ」で金沢を歩きました。

この年の3月に完成した金沢駅前おもてなしドームひろばがスタート・ゴール。1日目は百万石まつりをゆっくり見物しようと15kmコースに変更。日本海の潮騒を見ようと内灘町の砂丘まで歩きました。静かで海の向こうに連れ去られてしまいそうな雰囲気海岸線を足早に去りました。

15kmなので弁当は持たずにスタートすると雨が降り出しました。雨はスタート前に露天風呂に入ったり、歩行距離以上の栄養取得と最近の寅次郎のウォークへの取り組み姿勢に対する愛のむちと受け止め、雨と空腹に耐えるという厳しい試練を乗り越えました。

ゴール後、着替えて武蔵ヶ辻にて第54回加賀百万石まつり行列を見物しました。市民4000名が練り歩き、観客は30万人とか。行列の合間に見物の加賀美人に見とれるひと時も。行列はミス百万石等の先陣、百万石の伝統文化を受け継ぐ人達(とび、獅子舞、木遣り)の第一部、祭りそのものを楽しむ音楽パレードの第二部、加賀百万石の礎を築いた藩主とその周辺の人達の第三部の構成です。第三部は約400年前の前田利家の金沢入城、参勤交代。赤母衣衆(あかほろしゅう)などを再現した豪華絢爛の江戸絵巻で、この年の前田利家には俳優の赤井英和が扮していました。第二部からの2時間を見て、近くの近江町市場のすし屋に駆け込みました。見られなかった先陣、第一部のハイライトは翌朝のテレビで見ました。

2日目は「城下町コース」、犀川と浅野川沿いを歩き、伝統文化が息吹く百万石の城下町と初夏の自然を堪能しました。長屋武家屋敷では往時の加賀藩の雰囲気を、3つの茶屋街(にし・ひがし・かずえまち)では金沢の情緒が色濃く感じられました。圧巻は金沢城公園と日本三大庭園の兼六園でした。コースは兼六園の外沿いでしたが、園内を散策したく、行ったら無料公開日で44年ぶりに「ことじ灯籠」(写真右)と再会です。



人との出会い・ふれあいもウォークの楽しみ、

「今年からFWAに入会しました」という横浜の女性や「FWAのホームページは素晴らしいです」と埼玉の男性から声を掛けられました。

又、前日の26kmでは追いつけなかった健脚の若い女性二人組と「かずえまち茶屋街」の冷やしそーめんサービス後に再会し、一緒にゴール。二人の「さすがに2日目は足が痛くてペースダウンしました。初参加です。」には恐れ入りました。給水ポイントで配られた「梅干し飲みたい」(ドリンク瓶に入った梅果汁)、冷やしそーめん(前述)、銘菓 落雁、ゴールでの金箔入りお茶、リポビタンのサービスは昼食不携帯で歩いた寅次郎には大変なご馳走でした。

映画の寅さん、1972年(昭和47年)8月公開の第9作「男はつらいよ 柴又慕情」で福井・金沢で出会った北陸旅行中の三人組のひとりの歌子に胸を焦がします。詳細は「聖火リレー10 福井県」をご参照ください。

1989年(平成元年)8月公開の第41作「男はつらいよ 寅次郎心の旅路」で自殺をしようとした青年を助け、一緒に海外旅行でウイーンを訪問した寅さん、日本女性のガイドとの恋に破れて帰国しています。

元気になった寅さん、ラストシーンでは石川県能登地方の羽咋市(はんにし)の気多大社の祭でウイーン製と称したバッグのたたき売りをしています。

詳細は「聖火リレー16 宮城県」をご参照ください。

聖火は富山県へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝